

めることが重要だ。市内に民泊が増えることのプラスとマイナスの面をどう考えているのか、所見を伺う。

市長 来訪者が市内で宿泊をすることにより、飲食や商店等の利用が増え、観光振興への効果が想定される。一方で、生活時間の違いなど、住民とのトラブルが発生し、コミュニティへの影響も想定される。

議員 条例等でより細かいルールをつくり、より良い民泊営業を求めている自治体がある。本市では条例制定などを考えているのか。

市長 国家戦略特区における先行自治体の取り組みを学びながら、制定が予定されている民泊新法の動向を見定め、検討を続けたい。

議員 市内で営業している民泊についてどう認識しているか。苦情等はあるか。

生活環境部調整担当部長

相談、苦情はないが、大手民泊紹介サイトには数千件の登録があり、利用実態があると確認できている。

議員 民泊経営には都への許可申請が必要だ。市内から何件の申請があったか。

生活環境部調整担当部長 東京都多摩府中保健所によると、現在市内での民泊の届け出や相談はない。

議員 違法民泊が蔓延しており、本市でも看過できない状況だ。違法民泊の取り締まりや指導には、都だけでは人手が足りない。本市の違法民泊に対する所見と対応について伺う。

生活環境部調整担当部長 違法民泊が蔓延すると、防犯、周辺住民への迷惑行為等、様々な問題がある。旅館業法上の許可権限を有する保健所と連携し、市民や民泊の施設提供者に効果的な啓発・周知に努めたい。

年代別の取り組みで 市民満足度の向上を



自由民主クラブ 伊東 光則 議員

議員 本市では市民との協働が歴史的に培われてきた。その市民が自由な考えのもとに生き生きとした生活を送るサポートをすることは、市の重要な役割だ。高齢者が居場所や生きがいを見つげられるよう、外出したくなるまちづくりが重要ではないか。所見を伺う。

市長 ハード面での環境整備や、ウォーキングコースを紹介する健康マップなどの作成等のソフト面の取り組み、ボランティア活動や生涯学習等の目的をもつて外出してもらう取り組みの推進が重要だと考える。

議員 勤労世代は、最も市のサービスを受けていない年代だと考える。交通の利便性向上等のインフラ整備や、余暇の充実などが重要ではないか。勤労世代の満足度をどう捉え、どのような対応を考えているか。

市長 本市は、勤労世代と想定される市民からも、満足度や定住意向の評価は高い。指摘の取り組みだけでなく、消防団等の地域で活躍できる場を意識してもら

うことが重要だと考える。

議員 子育て世代には、子育てに不安を抱える親へのサポートや、子どもの個性を大切に健やかな心を育てるサポートが重要だ。

子ども政策部長 保育、教育支援、在宅子育て支援等を実施し、地域全体で子どもを見守り、適切に支援できる環境の実現を目指す。

議員 若者が個性豊かな発想で様々な経験を積めるようなサポートが大切である。イベント等を協働で企画するなど、若者を応援する取り組みについて伺う。

市長 事業にボランティアで参加すること等を通じ、自己実現の感覚をもってもらうこと、多世代交流を促す支援が重要だと考える。

議員 児童・生徒には小・中一貫教育が実施されている。実施前とどう違うのか。

教育長 卒業後もボランティアとして学園に戻る等、本市が掲げる人間力、社会力が育っている。不登校が7割減ったことも成果だ。

子どもたちの未来のために アクティブ・ラーニング導入を



自由民主クラブ 小俣 美恵子 議員

議員 社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難な時代となっている。これからの時代に求められるものは、既存の知識のみではなく知識を使って新たな課題を発見し、それを解決する力だと考える。そのためには、教育現場において、主体的・対話的で深い学び、アクティブ・ラーニング(能動的学習)を取り入れていく必要があると考える。アクティブ・ラーニングで身につく力について所見を伺う。

教育長 グローバル社会を生き抜くため、子どもたちが新しい価値の創造に結びつけるために必要な資質、能力を身につけ、生涯にわたる能動的に学ぶ力を育むことが重要と捉えている。

議員 市立小・中学校におけるアクティブ・ラーニング型授業の取り組み状況について具体的な事例を伺う。

教育長 三鷹中央学園では画するなど、若者を応援する取り組みについて伺う。

議員 自ら考え表現する児童・生徒を育てる指導の工夫を研究テーマに、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた学習課程の改善を副主題として研究を進めている。

議員 教員がアクティブ・ラーニング型の授業を進めるために、どのような取り組みをしているのか伺う。

教育長 対話的な学びの実践に向け、グループ学習等の場の設定、発表方法の工夫、効果的なICTの活用などの準備を進めている。

議員 アクティブ・ラーニング型授業の成否は、これまで以上に現場の教員の力量に負うところが大きいと考える。現状の課題を伺う。

教育長 本市では問題解決型学習にも取り組んでいるが、話し合いが深まらず発展しない授業、学んだことを実生活や社会と結びつける活動などに課題がある。

議員 アクティブ・ラーニ

ング推進について教育ビジョン2022(第1次改定)における位置づけを伺う。

教育長 児童・生徒が主体的、協動的、能動的に学ぶ学習を進め、知・徳・体のバランスのとれた育成を図ることを盛り込んでいる。

三鷹の未来の まちはぐらんど



自由民主クラブ 加藤 浩司 議員

議員 市は、三鷹市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標に、妊娠前から出産・子育て期まで切れ目のない支援を掲げている。人口減少時代を見据えた出生率向上の取り組みを伺う。

市長 妊娠期の相談・支援を充実し、安心して妊娠できる環境づくりに努める。

議員 少子長寿化と労働人口の減少から、女性の活躍が期待されている。ライフ・ワーク・バランスに関する調査における、市内事業所の現状について伺う。

企画部長 人材定着や意欲向上のために、8割の事業所がライフ・ワーク・バランスに前向きな回答だった。

議員 都市農業が将来も安定的に継続できることを望む。学校農園の農園主に対する指導料等は見直しを検討しているか。

議員 味の素スタジアムで大会を観戦した外国人を三鷹の森ジブリ美術館や井の頭公園に誘導するため、広域連携により、近隣市との名所を含めた魅力的な観光ルートを検討してはどうか。

市長 東京都市長会においても、市町村、島しょの広域連携による観光推進の仕組みなどを検討し、報告書をまとめたところだ。

市民目線で人にやさしい 行政サービスの充実を



公明党 大倉 あき子 議員

議員 障がいのある生活困窮者や引きこもりの子がいる高齢者など複合的な課題を抱える市民に対応するため、行政の縦割りを超えた新しい包括的な相談支援システムの構築が必要だ。

市長 相談支援包括化推進員の配置について、今後、モデル事業の成果を検証しながら検討していきたい。

議員 視覚障がい者にとって、情報バリアフリーの重要度は極めて高い。点字や音声テープに加え、スマートフォン等で読み取りができる音声コードを行政の発行物に採用してはどうか。

健康福祉部長 バリアフリーの推進の観点に加え、音声コードの周知・啓発の意図も込めて、封筒への刷り込みを検討していきたい。

議員 障害者差別解消法が昨年4月に施行され、障がい者への合理的配慮が義務づけられた。本市の取り組み状況と課題を伺う。

市長 手話通訳者の配置や筆談ボードの設置等を行っている。個々のケースで困り事の内容も異なることから再認識されたことから、障がい種別や状況等に応じた支援を深めていきたい。

議員 装具を付け高齢者の生活の困難さが実感できる「高齢者疑似体験」を職員研修に取り入れてはどうか。

市長 今後、研修内容として検討していきたい。

議員 職員の接遇力向上に向けて配付した接遇マニュアルについては、社会的背景の変化に合わせて刷新することが必要ではないか。

総務部長 一斉に見直し、様々な立場の市民に寄り添えるマニュアルを目指して検討していきたい。

議員 ICT分野が革新的に進歩する中、今後、高齢者に対する情報格差解消に向けた取り組みは更に重要になると考える。所見を伺う。

市長 現時点では高齢者世代のICTを活用した情報収集は限定的だと認識している。スマートフォン等の適切な利用促進に努めることも重要だと考えている。

議員 ICT分野が革新的に進歩する中、今後、高齢者中心メールの活用について登録者数や利用実態を伺う。

市長 正確な把握はできていないが、特に特殊詐欺防止など高齢者向けの情報は積極的に配信していくことが大事だと認識している。

議員 高齢者の運転実態に関する調査、自転車の利用状況も含めた交通を切り口

高齢者の安全・安心な暮らしを守る環境整備を



公明党 粕谷 稔 議員

議員 ICT分野が革新的に進歩する中、今後、高齢者に対する情報格差解消に向けた取り組みは更に重要になると考える。所見を伺う。

市長 現時点では高齢者世代のICTを活用した情報収集は限定的だと認識している。スマートフォン等の適切な利用促進に努めることも重要だと考えている。



ライフ・ワーク・バランス PRラッピングバス